

(別添)

# 愛知県青い鳥医療療育センター 公的医療機関等2025プラン

平成29年 12月 策定

【愛知県青い鳥医療療育センターの基本情報】

医療機関名：愛知県青い鳥医療療育センター

開設主体：社会福祉法人恩賜財団済生会支部愛知県済生会  
(愛知県から指定管理者として指定)

所在地：名古屋市西区中小田井5丁目89番地

許可病床数： 170床  
(病床の種類別) 一般病床 170床  
  
(病床機能別) 慢性期機能 170床

稼働病床数： 170床  
(病床の種類別) 一般病床 170床  
  
(病床機能別) 慢性期機能 170床

診療科目：整形外科、小児科、内科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、児童精神科、  
小児外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科、小児神経科

職員数： 常勤 177人、非常勤 64人 (25.64人)  
・ 医師 常勤 7人、非常勤 26人 (4.02人)  
・ 看護職員 常勤 105人、非常勤 22人 (16.60人)  
・ 専門職 常勤 55人、非常勤 15人 (8.42人)  
・ 事務職員 常勤 10人、非常勤 1人 (0.48人)  
※平成29年11月1日現在。( )内は常勤換算。

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

(地域の人口及び高齢化の推移)

- ・ 名古屋・尾張中部構想区域は、県内人口の3割以上が集中し、240万人が居住している。
- ・ 総人口は県全体同様の推移で減少する。65歳以上は増加し、県全体より増加率は高い。

(医療資源等の状況)

- ・ 病院数が多く、大学病院が2病院あり、救急救命センターも6か所整備されている。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富である。
- ・ 急性期入院機能は充実している。
- ・ 医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題はない。
- ・ 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床（ICUなど）が、18病院で届出されており、自域依存率が高い。

### ② 構想区域の課題

- ・ 大学病院が2病院あり、救急救命センターも6か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。
- ・ 人口が多く、面積も広いいため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要がある。
- ・ 回復期機能の病床を確保する必要がある。

### ③ 自施設の現状

#### (運営方針)

- ・重症心身障害児(者)等の地域での生活を支えるため、基本理念、基本方針に沿って具体化、定着化を進める。

#### 【基本理念】

- ・すべての人の命と生活を「ささえます」
- ・ともに生きる社会を「めざします」
- ・これらを私たちの使命として「はたします」

#### 【基本方針】

- ・利用者のQOLの質の向上に向けての取り組みと療育活動の展開
- ・地域の保健医療福祉サービスとの連携及び在宅障害児(者)への総合的なサービス提供
- ・指定管理者制度に対応した効率的な運営と経営基盤の強化推進

#### (診療実績)

- ・届出入院基本料：障害者施設等入院基本料（7対1） 4病棟140床  
特殊疾患病棟入院料2 1病棟30床
- ・平均在院日数：456.0日（平成28年11月1日～平成29年10月31日）
- ・病床稼働率：88.5%（平成28年11月1日～平成29年10月31日）

#### (職員数)

- ・医師 常勤 7人、非常勤 26人（4.02人）
- ・看護職員 常勤 105人、非常勤 22人（16.60人）
- ・専門職 常勤 55人、非常勤 15人（8.42人）
- ・事務職員 常勤 10人、非常勤 1人（0.48人）

※平成29年11月1日現在。（ ）内は常勤換算。

#### (特徴)

- ・重症心身障害児(者)及び肢体不自由児を対象とした入所施設であり、病院である。
- ・重症心身障害児(者)には長期にわたる療養を提供し、肢体不自由児にはADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する。
- ・障害児(者)を対象とした外来診療では、発達障害児の診療を多く実施する。

#### (他機関との連携)

- ・利用者に総合的な医療・福祉サービスを提供するため、地域の関係機関や児童相談所・福祉事務所などの行政機関との連携を行う。

### ④ 自施設の課題

- ・県内の重症心身障害児(者)の入所施設は、平成26年度までは、当センターと心身障害者コロニーこばと学園、東名古屋病院、豊橋医療センターの4か所であった。その後、ティンクルなごや、一宮医療療育センター、愛知県三河青い鳥医療療育センター、信愛医療療育センターの4か所が相次ぎ開所し、8か所体制となった。今後は各施設が協力し、重症心身障害児(者)を支援していくことが必要である。
- ・利用者の重度化・高齢化や、医療・福祉制度の改正などの課題に対応しながら、当センターの役割を現状どおり果たしていく必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 当センターは活動の歴史が長く病床も多いことから、県内全域を対象として多くの経験と実績を培ってきた。こうした実績を持つ当センターが県立こばと学園と協力し、新設の重症心身障害児(者)施設と連携しながら、重症心身障害児(者)の生活を支援するための取組を進めていく。
- ・ 重症心身障害児(者)等とその家族に対し、利用者の身体状態等に応じた適切な医療・福祉サービスが提供されるよう、各種事業の中身の充実を図っていく。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 慢性期機能を今後も継続する。

③ その他見直すべき点

- ・ 在宅で暮らす重症心身障害児(者)及びその家族の生活を支援するため、短期入所や通園の利用者の拡大を図る。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	170床		170床
(合計)	170床		170床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○合意形成に向けた協議	○自施設の今後の病床のあり方を決定(本プラン策定)	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">                     集中的な検討を促進 2年間程度で                 </div>
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る	
2019～2020年度			<div style="display: inline-block; width: 20px; height: 100px; background: linear-gradient(to top, #f96, #f00); border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></div> 第7期 介護保険 事業計画
2021～2023年度			<div style="display: inline-block; width: 20px; height: 100px; background: linear-gradient(to top, #90ee90, #00ff00); border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></div> 第7次 医療計画
			<div style="display: inline-block; width: 20px; height: 100px; background: linear-gradient(to top, #f96, #f00); border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></div> 第8期 介護保険 事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：92%

経営に関する項目\*

- ・ 人件費率：70%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.5%

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)